



気が付いたらすぐ受診!

脱腸【鼠径ヘルニア】

そけい

脚の付け根の周辺が膨らんで気付く「鼠径=そけい=ヘルニア(脱腸)」。放置すると命にかかわる病気です。鼠径ヘルニア手術を多数手がけるKKR高松病院の江原和男副院長・手術室長に、現状と新しい手術法などについて聞きました。



KKR高松病院 江原和男副院長・手術室長

脚の付け根に膨らみ

ヘルニアとは、体内の臓器があるべき場所からずれた状態のことを言います。椎間板の一部がずれる「椎間板ヘルニア」や、俗に出べそと言われる「臍ヘルニア」など、体のさまざまな場所でヘルニアは起こりますが、脚の付け根周辺に発生するのが鼠径ヘルニア(脱腸)です。

「鼠径ヘルニアは、体内で内臓を保護する「筋膜」がゆるみ、その穴から腹膜や腸などが移動してしまう状態を指します。最初は痛みがなく、入浴中やくしゃみをした時など腹部に力がかかった際に、下腹部周辺で膨らむ部分が発見してヘルニアに気付くことが多いようです」

放置は命の危険に

子どもの先天性なヘルニアは成長にともなって自然治癒する場合もありますが、大人のヘルニアは筋膜は投薬や運動では強化できないため、手術でしか治療できません」

「下腹部の症状のため「恥ずかしいから…」と受診をためらい、膨らみを押し込むヘルニアバンドなどを日常的に使用する方もいますが、これは一時的な対症療法にしかありません。『押すと戻る段階のヘルニアに危険はありませんが、腸が入りすぎる状態を放置するとさらに筋膜はゆるみ、腸が体内に戻らなくなる「嵌頓」になると血流障害によって急激な痛みを襲われます。この状態になってしまつと、すみやかに緊急手術を受診してください」



「脱腸は子どもの病気」というイメージを持たれがち。しかし、鼠径ヘルニアは筋膜が弱った状態で発生するため、むしろ日常的に重いものを運んだり、立ち仕事などの同じ姿勢を続けてきた人、肥満気味な人、加齢によって体の組織が衰えた中高年層などに多く、男性だと一生の間に4人に1人に症状が表れます。

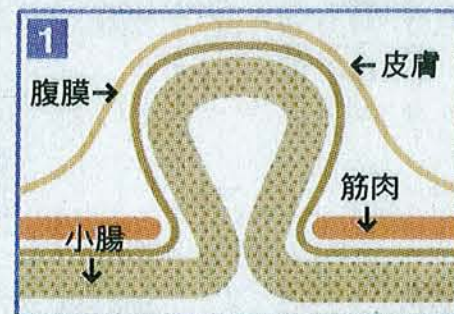
「子どもは成長にともなって自然治癒する場合もありますが、大人のヘルニアは筋膜は投薬や運動では強化できないため、手術でしか治療できません」

「ヘルニアは誰でもなる可能性があると認識し、脚の付け根に押すと膨らみを見つかり、引っぱられるような違和感を感じた際にはすぐに外科を受診してください」

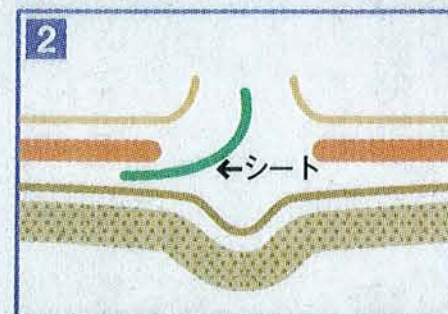
合理的な「クーゲル法」

「クーゲル法」はヘルニアの穴を筋膜の内側からメッシュシートでふさぐという合理的な手術法です。メッシュシートはヘルニアが起こりうるすべての場所を同時に覆うことができるので再発防止効果も期待できます。また手術時間も約20~30分と短く済みます。※健康保険が適用されます。

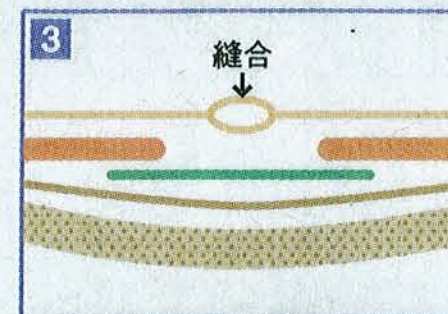
メッシュシートでふさぐヘルニア手術



1 腹膜を押して腸が飛び出したヘルニアの状態



2 鼠径部を切開して腹膜をおなかの中に戻し、シートを入れる。



3 シートで出口をふさぎ、縫合して終了(クーゲル法)